

über Höhlen- und Karstforschung, 1939, pp. 8—16, 11圖

7. Yosii, Riozo (吉井良三) 1939 Two new species of Tomocerid Collembola from limestone caves of Japan 日本動物學彙報 18—3:177—182, 1圖版

尙大淵眞龍氏は 今年10月12日第15回日本動物學會大會席上龍河洞産蚯蚓に就いて講演された。其の要旨は何れ動物學雜誌上に出る筈である。(高島春雄)

く も を 撮 む (II)

芝公園の多足類

昨年の初冬頃放深澤治男氏が拙宅に見えられ、東京市芝區芝公園で努力採集された色々の動物標品を渡され、夫々の専門家に鑑定して貰つて欲しいとのことで一先づ私がお預りした。軟體動物は腹足類のみで其の大部分は東大理學部動物學教室の大山桂氏の御同定を経た。多足類は高桑良興氏に同定して頂いたが採品は少くて次の4種のみであつた。

- 1 タカナガヅデムカデ *Mecistocephalus (Mecistocephalus) takakuwai* Verhoeff 2
アカムカデ *Otocryptops sexspinosus* Say 3 アカワオビヤスデ (高桑氏新稱) *Nedyopus*
sp. 4 ヒメヤスデの一種 Gen. et sp. indet.

他の動物の標品は私がお預りした儘で未だに御生前に託された責任を完了しないで居るのは慚愧の至りである。(高島春雄)

ヨシイヘハヘトリの分布

昭和12年8月、山縣隱岐の採集の結果を「中國地方の蜘蛛相概要」として報告しておいたが、隱岐島^{タウゴ}後に採集したヨシイヘハヘトリ (*Yoshiiyea agoana* Kishida) が洩れてゐたので、こゝに一言附加する。(八木沼健夫)

蜘蛛と雲の發音 (1)

北信地方—雲(クモ)・蜘蛛(クモ) 南信地方—雲(クモ) 蜘蛛(クモ) 以上小松敏宏氏報告、信州埴科郡屋代町—雲(クモ) 蜘蛛(クモ) 橋(ハシ) 箸(ハシ) 鳳(タコ) 章魚(タコ) 土(ツチ) 槌(ツチ) 以上細野善熙氏報告 (植村利夫記)

カバキコマチグモの子供は親を食ふ

これは本年の總會で發表しておいたことであるが、予は本年カバキコマチグモ *Chiracanthium japonicum* の子供は卵囊外に出るまでの間に、自分の生みの親である母蛛を食ひ殺して成長するものであることを確めることが出来た。これはたとへ蜘蛛の世界だからと云つても、倫理學上の由々しき大問題である。人間には親の脛をかぢる者があるが、親を食ひ殺したといふ例は少ない。詳細は次號に發表の豫定である。(植村利夫)